

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教 育 学 ）	氏名	徐 婕
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p style="text-align: center;">中国人学習者の日本語文における漢字単語の処理 一文の制約性と中日2言語間の形態・音韻類似性を操作した実験的検討一</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p style="text-align: center;">主 査 教 授 松 見 法 男 審査委員 教 授 深 澤 清 治 審査委員 教 授 宮 谷 真 人</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国人学習者）が日本語文を読むとき、漢字単語をどのように処理しているかを明らかにしたものである。具体的には、文全体の意味からターゲット単語がどの程度容易に推測できるかという文の制約性を取り上げ、その高・低条件を材料要因として操作し、さらにターゲット単語である漢字単語について、中国語と日本語（以下、中日）の間の形態類似性と音韻類似性を同時に材料要因として操作する実験を行った。</p> <p>論文の構成は、次の通りである。</p> <p>第1章では、中国人学習者における漢字研究の現状について紹介し、中日2言語間の形態類似性と音韻類似性を定義した。中国人学習者の心内辞書モデルの特徴に基づき、本研究の実験課題について説明し、形態・音韻類似性を操作した実験の結果から、心内辞書内の各表象の連結関係及び日本語漢字単語の処理を解釈する際の説明論理を記述した。また、単語の単独呈示事態を用いた印欧語族の2言語を対象とする先行研究と、中日2言語を対象とする漢字単語の処理研究とを概観し、文脈を伴う事態における単語認知研究の流れを吟味した。先行研究の結果をまとめ、未解明の問題点に言及した上で、本研究の研究課題を提示した。</p> <p>第2章では、日本に留学中の上級の中国人学習者を対象とし、日本語文における漢字単語の処理について検討するため、4つの実験を行った。実験1では、文の中間部にある漢字単語の音韻出力に焦点を当て、ターゲット単語の読み上げ課題を採用した。その結果、低制約文条件における漢字単語の処理が、単語の単独呈示事態での処理と同様の傾向を示すことが明らかとなった。高制約文条件では、文脈の影響により、形態類似性と音韻類似性が互いに独立して漢字単語の音韻処理にプラスの影響を与えることが明らかとなった。</p> <p>実験2では、日本語文の特徴を考慮し、文末に位置する漢字単語の音韻処理に着目して、実験1の再検討を行った。その結果、低制約文条件では、実験1と同様の処理が行われることがわかった。ただし、高制約文条件では、形態類似性の抑制効果がみられ、単語の単独呈示事態や低制約文条件における漢字単語の処理とは異なる様相が明らかとなった。豊かな文脈により、ターゲット単語に対する概念表象及び語彙表象の前活性化が単語処理に</p>			

影響を与えたと考えられる。

実験 3 では、文末に位置する漢字単語の意味処理に焦点を当て、ターゲット単語の語彙判断課題を採用した。その結果、高制約文条件における単語処理が双方向的であり、概念表象から語彙表象への前活性化、及び語彙表象から概念表象への活性化が、ともにターゲット単語の処理に影響を与えることが明らかとなった。低制約文条件では、単語の単独呈示事態と類似した現象が示されたが、やや異なる結果となった。文脈の存在が、ターゲット単語に小さいながらもある程度の影響を与えることが明らかとなった。

実験 4 では、文末に位置する漢字単語の翻訳（中国語の音韻出力）に着目し、口頭翻訳課題を採用した。その結果、高制約文条件でも低制約文条件でも、漢字単語の形態・音韻類似性の効果がみられたが、文の制約性によってその働き方が異なることが明らかとなった。概念表象と語彙表象の前活性化の有無によって、中日 2 言語の音韻表象の利用の仕方が異なることが推察された。

第 3 章では、実験 1 から実験 4 までの各課題における高制約文条件と低制約文条件の結果をまとめ、それをふまえて中国人学習者における日本語文の漢字単語の処理について総合的な考察を行った。さらに、本研究の意義、日本語教育への示唆、及び今後の課題を述べた。

本論文は、次の 3 点で高く評価できる。

1. 従来、日本語教育分野で中国人学習者の日本語漢字単語の処理を扱った研究は、単語の単独呈示事態、ならびに文の先行呈示事態を扱ったものが多く、文中における漢字単語の処理については、未だ検討されていなかった。本研究では、漢字単語を日本語文の構成要素として位置づけ、累積型の移動窓法を用いて、文脈の影響下における処理過程を明らかにした。
2. 本研究では、漢字単語の読み上げ課題、語彙判断課題、口頭翻訳課題を採用し、日本語の音韻出力、意味アクセス、そして中国語の音韻出力に着目する実験を行った。中日 2 言語の心内辞書における語彙表象及び概念表象の活性化の様相が明らかとなり、中国人学習者の心内辞書モデルの精緻化を促した。
3. 本研究の結果から、中国人学習者は漢字単語の形態表象から音韻表象を経由して概念表象に至る処理経路を有するが、他方において、概念表象から形態・音韻表象への処理経路を効率的に利用できないことが示唆された。中国人学習者の日本語漢字単語の学習では、句や単文を用いた意味ユニットの意識化が重要であることを、教育的示唆として導出した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 2 年 2 月 12 日